

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・販売量は前年度に比べてすばらしく良い。団体、個人ともに客の表情が非常に生き生きしている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・余剰在庫が出なくなっている。
		百貨店（店舗事業計画部）	来客数の動き	・入店客数の多い時期ではあるが、駅利用客を中心に客足が良く、盛夏商品が必需品となり好調なのに加え、お盆前後の手土産もよく売れた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客数の増加もあるが、お盆過ぎからの客単価の上昇が一番売上に貢献している。買上点数もかなり増えている。
		スーパー（統括者）	競争相手の様子	・新聞紙上や競合業者の状況からみて、売上等も良くなってきている。市場は回復傾向である。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月末の売上は、量販店が前年比103.9%、コンビニエンスストアが114.1%、ローカルスーパーが74.0%であった。全体的に販売量は伸びている状況だ。今月はコンビニエンスストアのオープン店舗が多く、売上が伸びている。
		衣料品専門店（チーフ）	販売量の動き	・ファイナルセール時期とはいえ、まとめ買いの客が数多くみられる。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑によりエアコン・冷蔵庫の動きが良く、他の商品にも波及効果がみられる。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・猛暑によるエアコンや冷蔵庫等の白物家電が好調に推移した。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・例年なら鹿児島市内は降灰が多いが、今年はお盆が終わるまで降らなかった。天候に恵まれたためか空港の搭乗客が昨年より多く、売上に貢献した。現在、数量、売上ともに前年比108～110%増えている。やっと景気の上向きを肌で感じられるようになった。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、盛夏物が早めに動いた。その分8月に入り衣料品を中心に苦戦した。盛夏物も秋物も動きは悪いが、猛暑が続き、エアコン等の空調関連、飲料やアイスクリームは好調に推移している。中元商戦も昨年を上回る結果となり、消費者の節約志向はあるものの、消費環境としては、やや良くなっていると判断する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・来場数が海外の客を含め、増加している。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊関連では全国高等学校総合文化祭・全国高等学校総合体育大会等が開催され、昨年を大きく上回る。レストランにおいても前年を上回って推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の増加と猛暑のため、乗客数がやや伸びた。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・在宅サービスについては猛暑の影響で入院等による利用中止が増加したが、高齢者向け住宅建設については、国の施策や消費税増税前の駆け込み需要により、業界的にも活発になっている。
		設計事務所（代表表）	来客数の動き	・広告の反響が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今年に入って、請負契約棟数が毎月、前月を上回っている。
		住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・住宅は完成見学会の来場数が1.3倍ぐらいに増えており、そのなかでも具体的に新築を考えている客の割合が増えている。
		変わらない		商店街（代表者）
商店街（代表者）	お客様の様子			・8月は猛暑のせいで昼間の客は少なかったが、夜のイベントは大変にぎわった。
商店街（代表者）	来客数の動き			・例年にない暑さのせいで、特に昼間は年配の方の来客数がかなり少なくなっている。地方の商店街にはまだまだアベノミクスの波及効果がない。
商店街（代表者）	お客様の様子			・今年の夏はかなりの猛暑で、我々の商店街では空調設備がなく駐車場が狭いため、来客数がかなり少ない。8月の終わりの集中豪雨でいよいよ商売もさっぱりである。

一般小売店〔青果〕(店長)	お客様の様子	・し好品である果物の伸びが厳しい状態。また、キュウリなどは袋入りよりも1～2本のバラ売り需要が伸びている。客が無駄な買物をしなくなった状態が、この2、3か月で著しくなってきた。
一般小売店〔茶〕(販売・事務)	販売量の動き	・厳しい暑さで、前年より贈答品の購入者数と販売量が大幅に減少した。外販も受注件数が少なくアペノミクス効果は中小企業には全く反映されていない。
百貨店(総務担当)	販売量の動き	・猛暑が続きビアガーデンを筆頭に飲食は好調なもの、アパレルは晩夏物、初秋物の動きが鈍い。加えて来店客減により書店、100円ショップなどの実績が大きいテナントが不調である。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・夏物の処分期にあたるが、猛暑によりミセス・シニア客の来店が明らかに少ない。セールの中でも最終処分期で、もうひと山あるはずのお盆休み前後から特にその動きが顕著となっている。
百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・売上は、台風の影響で2ポイントほど前年割れの状況になる。ただし台風を除くと5月とあまり変わらない状況である。実質的には安定した動きを維持しているので特段心配ない。今月は、各部門の差があまりないのが特徴である。
百貨店(売場担当)	販売量の動き	・連日記録的な猛暑で、夏物の季節商材中心に期待していたが、猛暑過ぎて客の入店数が思ったより伸びず、結果として夏物衣料、夏物用品もそこまで販売量を増やすことができなかった。
百貨店(営業統括)	お客様の様子	・中元商戦後半に入り、記録的な猛暑に見舞われ、婦人高齢顧客を中心に来店客が減少している。
百貨店(営業政策担当)	来客数の動き	・九州主要百貨店の状況は来客数・売上高とも、前年比で引き続き100%にあるものの、各社個別の営業戦略の他、天候と件等で左右される部分も大きく、安定的な景気上昇局面とまでは言えない。
百貨店(企画)	販売量の動き	・来店客数は増えてきているが定価品への関心が低い。反面、別会場催事などのセール品の売上は好調に推移している。
スーパー(経営者)	販売量の動き	・最小限の買物で無駄な買物がなく、買わない客もいる。
スーパー(店長)	販売量の動き	・気候的な要因での単価変動はみられるものの、基本的な景況感は3か月前と大きな変化はない。
スーパー(店長)	来客数の動き	・食料品を中心に客数が昨年並みに回復しているが、セール期間中に集中しており、平常は厳しい状況が続いている。また会員様限定企画等ではエアコン、海外メーカーの高級クリーナー、パソコン、ノンフライヤー等、耐久消費財が好調に動いているが、いずれも安売りをしたときに限られる。
スーパー(店長)	競争相手の様子	・食料品の売上は前年比103%で推移しているが、衣料品が厳しい。特に夏物衣料の婦人と肌着が同96%と厳しい数字となっている。トータルでは前年並みであるが、衣料品の買い控えがかなり影響している。
スーパー(店長)	単価の動き	・環境が日々厳しくなるなかで、競争相手との対抗策を含め、価格の見直しを行った結果、売上は回復したものの、客単価は前年比97%で決して良い状況とは言えない。
スーパー(総務担当)	それ以外	・食料品、住居用品は昨年を上回って推移しているが、衣料品は猛暑のわりに夏物の動きが良くなかった。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・猛暑のため、飲料ほか家庭で手間のかからない揚げ物や簡便商材の売行きが良い。
スーパー(業務担当)	お客様の様子	・夏休み期間全般を通して、ファミリー層の客足が例年と比較して減少している。季節商材も食品は低調が続く、販売員へのヒアリングでも「客の購買意欲が接客のなかでも感じられない」といった感想が多かった。
コンビニ(エリア担当・店長)	競争相手の様子	・この1か月の間に競合する既存店が改装オープンし、さらにコンビニエンスストアが新規オープンした影響で、この1か月半は売上が低迷している。
衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・客の買物が、日常の買物に限られている。その日常の買物では価格の安い店を選んでいるようだ。
衣料品専門店(店員)	来客数の動き	・月末の大雨で夏物最終セールの売上が伸びなかった。代わりに初秋定価品の売上が伸びて、結果、昨年並みの売上になった。

衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・例年、8月は季節の変わり目で大変厳しい月である。5月の春物の実需期と比較すると8月はあまり良くない結果となった。セール品のまとめ買いも減っており、月末に雨だったこともあり2、3日分、昨年の実績を割る結果となった。	
家電量販店(店員)	販売量の動き	・季節要因もあるが、家電についてはずっと悪い状態が続いている。特に今年はエアコンや季節物が多く出たが、単価ダウンが影響して良いとは言えない。	
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・当社の主な取扱車種である登録車のコンパクトカーは、軽自動車の好調に押され販売が伸びない。厳しい状況が続いている。	
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・前年同月比では、コーヒーが出る量はほぼ横ばい状態である。販売量は同じであるが、若干新規顧客が増加している。	
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は6月より上昇してきた。本年は例年と比較して早く梅雨明けし、猛暑日が昨年より多かったせいか、燃料油の販売量は多少昨年より増加した。高額のカーケア商品を購入する顧客は、昨年並みである。	
その他専門店 [書籍](地区支配人)	販売量の動き	・天候に左右されることが多く、日々の売上の上下のブレ幅が大きいですが、平均すると変わらない。	
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・8月の猛暑で客数が減ったのに加え、鹿児島島の桜島噴火の影響でキャンセルがたくさん出たことが重なり、売上が伸びなかった。	
一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・7月は、予約数や来客数の増加に加えて食事の単価も上昇傾向にあったが、8月の繁忙時期に入り、県外の客が例年より少なく、県内の地元客に関しても安価なコースを注文することが多かった。客との会話のなかで、T P Pに関する不安の声や消費税増税に反対する声を聴く限り、決して良くなってはいない。	
居酒屋(経営者)	来客数の動き	・出入りしている業者に聞いても、平日もあまり忙しくない状況で、週末も似たような感じとのことである。	
観光旅館組合 (職員)	来客数の動き	・客数は増えているが、商品を買わない方や安い物しか購入しない方が多くなったようだ。	
都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・客の数が増え、今月は売上も良かった。	
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・お盆期間だけに限ると、売上は前年増であったが、その前後は前年割れとなった。猛暑による出控えもあったようだ。富士山登山は過去最大の人気である。	
タクシー運転手	来客数の動き	・長崎は今月イベントが続いたのでいくらか良かった。イベントがなかったらあまり冴えなかった。	
タクシー運転手	来客数の動き	・8月にしては全体的に稼働率が良く、予約状況も良かった。売上も例年になく良かった。	
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・市場に飽和感があり、他社を含めて現状を打破をする施策が見いだせていない。	
通信会社(総務局)	販売量の動き	・新規契約数は前年並みで推移しているが、伝送路の光化が進み解約件数は昨年より減少傾向にある。	
ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・今年は猛暑でなかなか入場者数が伸びない。また、単価的にプレー代が安いゴルフ場に客は流れている。県外の客が前年を少し割っているような厳しい状況であるが、予約が少しずつ増えているので、どちらとも言えずさほど変わらない状況である。	
美容室(店長)	お客様の様子	・客の来店回数が増える様子もなく、新規の客もない。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・宅建業の住宅販売における顧客は、興味がある物件については非常に関心が高く問い合わせも多く予約も入っているが、コンセプト等が合わないと思われないような状況が続く。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・猛暑と豪雨で来客数が激減している。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・アベノミクス効果と皆浮かれていたが、真夏になって客の動きが良くない。猛暑もあるだろうが購買意欲が非常に低下している。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・7月の夏物衣料が好調だっただけに、前倒しのせいか、8月に入ってから売上が伸び悩んでいる。特に高齢者が多い商店街では、異常な猛暑のため、日中の来街者が極端に少なく、売上減少の原因となっている。

		百貨店（営業担当）	単価の動き	・日祝の入店客数が3か月連続で前年を上回っている。しかし、上昇傾向にあったレジ客数が前年に達せず、2か月連続で前年を上回った客単価も当月は伸び悩んでいる。また、高級時計等の購入はあるが、夏物セール及びお中元ギフトは伸び悩んでいる。お中元ギフトの1品単価は上昇したが、客単価は前年割れした。厳選したギフトを送る傾向が顕著となり、購買意欲が減退傾向にある。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・高額品の動きは引き続き堅調である。3か月前に比べると、中間層の景気回復への期待感がしばみ、本来売れるべきものが厳しい状況である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・入店客数がここ数か月前年比90%前半であり、入店客数が非常に悪い状況が続いている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・自社近隣マーケット間の競争が激しく、集客戦略の差が大きく影響している。コストダウンに伴う販売促進策の減少が集客ダウンに影響した。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競合店出店が相次ぎ、売上が大幅に減少している。また、客の動向は、将来の消費税増税を前に財布のひもは緩むことなく、厳しい状況で推移している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・この夏の猛暑の影響で悪くなっている。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・客の1人当たりの購買量が減っており、その結果として客単価が下がり、販売額が若干減少傾向にある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカーの受注は伸びているが、それ以外の車種の受注が極端に少ない。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・毎月のキャンペーンは、低水準だが前年並みであった。しかし店舗での販売が先月、今月と良くない。消費者の購買意欲はあるが、慎重に検討するため、なかなか1回で決まらず、購入に時間が掛かる。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・ランチ、ディナー共に来客数減となっている。
		都市型ホテル（総支配人）	お客様の様子	・ホテル宿泊数は良くなっていない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・あまりにも暑かったせいか、昼は人の動きが悪く、夜も週末だけ動いている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・8月は、夏モデル商品の人気に陰りが見られ、販売台数が伸びず苦戦している。特に買換え需要が低調で、平日、週末とも来店客数の割には販売台数が伸びず。昨年を大きく下回っている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・8月の猛暑は予想以上で来場者数は激減した。日中は直射日光が熱波のように感じられ、早朝プレー以外は敬遠されてしまった。常連客は標高の高いゴルフ場にくら替えし集客は困難になった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・アベノミクス効果に期待しているが、お盆過ぎから客が減り愕然とした。チラシを打っても鳴かず飛ばずで経費ばかりかかっている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・2、3か月前からだんだん悪くなっている。アベノミクス効果は一部だけのことである。消費税増税の影響を懸念する。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑も影響し、来客数が非常に減少している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・魚の入荷量の少なさや魚価の高さなど要因はあるが、最近の来店数の少なさは異常で、採算割れの日が続く。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・猛暑で来店客がほとんどない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月はお盆前後がかなり厳しかった。
企業動向 関連 (九州)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年のこの時期に比べて受注が多い。工賃も少しずつ良くなっている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月という季節のマイナス要因はあるものの、全体的には受注量、受注額、3か月先までの情報量共に3か月前よりは10%程度伸びている。一部商品を除き在庫品の回転も伸びているが、高額品の動きは鈍く、低価格商品の販売が大半を占めている。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・引き合い数が増加しており、取引先及び競合他社の受注状況はやや良くなっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月同様、省エネ関連部品製造の設備受注が好調である。

	建設業（社員）	競争相手の様子	・9月までは今のままの発注が続く。一般競争入札が多く、偏った業者が受注しているが、市場で公共工事は発注されている。下請でも工事を請け負っている業者が多い。今のまま続いてほしい。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車関連企業の生産がやや減少しているが、鉄鋼や食料品の生産は増加している。コンビニエンスストアのほか百貨店・スーパーの売上が増加するなど、個人消費も持ち直してきている。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・メーカーや小売業などの取引先で消費税増税前の駆け込み需要など、景気改善の話を良く耳にする。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・今年は、住宅設備や通信販売、化粧品関連が全体の売上がけん引し、オリンピック関連の広告出稿が多く業績が良かった前年を超える売上となった。	
	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・ワインの売上が増している。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞くと、仕事が多く人手が足りないという話をよく聞くようになった。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・建設関係は、受注が減少したが、土木・建築とも業務の受注が増えている。土木は、今年度当初予算で建設関係の予算が追加されたこと、建築は、消費税増税前の駆け込みで住宅建築の需要がみられる。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・取引先のゲームセンター運営会社は、数年新規出店を見送っていたが、今期1件出店する。ショッピングセンター内の施設で、買物客の来店は底堅く推移している。当社のリース事業に関しては、貸し倒れも発生せず安定している。	
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7、8月は猛暑で、ビールの消費に伴う焼き鳥等は量的に計画以上の売上だった。スーパー向けも惣菜や生食等、お盆需要も計画通りの数字になりそうだ。冷食やハムの引き合いが強いが、原料不足もあり供給不足状況となっている。	
	農林水産業（営業）	取引先の様子	・畜産業界の状況は厳しい。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の受注が本当に少ない状態である。特に一般商品が悪く、今後の新商品に期待する以外はない。昨年度は休業補償手当で雇用調整助成金を受けていたが、前年度の10%が基準なので今年度は雇用調整助成金も申請できない状態である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・発注状態が非常に不安定な影響で、作業者に負荷がかかり非常に多くの退職者が出た。そのため不良品の発生や客への納期問題が起り、大変な状況に陥っている。この状況を食い止めるために最善の努力をしている。	
	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・一部取引先で受注が激減している。しかし商品によっては好調なものもあるようで、それに特化した営業が必要だと考えている。	
	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前月より受注量は変わらないが、毎月の黒字は続いている。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響で水物やエアコン関連の荷動きは良いものの、青果物は水不足で不作の状態である。	
	通信業（経理担当）	それ以外	・アベノミクスが一段落し、景気回復に向けた次の起爆剤が見つからない。ガソリン代も円安や中東情勢の悪化を背景にジリジリと上昇を続けている。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業の中小企業は、労務費や資材価格の上昇により利益が思うように計上できない状況が続いている。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連の業種の企業が多く、各企業の業況は厳しいところではあるが、昨年台風被害に伴う災害関連復旧工事がかなり出ており、当面の資金繰りに問題はない状況である。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・企業の設備投資は決して悪くはない。消費税増税の意識もあり、介護関連、新型の機械への投資等、中小企業の設備投資は一定の水準を維持している。ただし、3か月前から増加しているレベルではない。	
	不動産業	それ以外	・不動産の売買は前月と変わらず動いているが、賃貸の特に事務所の動きが悪く、借り手も少ない。	
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・DMによる営業活動を積極的に行っているが、ほとんど反応がない。
	やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・畜産物を販売しているが、全体的に厳しい状況である。特に、値段が高い牛について苦戦している。

	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品生産、販売ともにシーズン性があり、8月は端境期の月であった。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・思うように受注量が上がらない。	
	その他製造業（産業廃物処理業）	競争相手の様子	・同業他社の話を聞くと、どこも仕入れ状況が思わしくないとのことだ。企業・一般から排出されるスクラップが減っている様子である。半導体製造メーカーに受注が入っていないとの声も出ている。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主から預かっている荷物の荷動きが悪くなっている。また料金の値下げの要請も多くなってきた。	
	悪くなっている	-	-	
雇用関連	良くなっている	学校〔専門学校〕（就職担当）	・大企業、中小企業を含めて求人への動きが良い。	
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・実質の給与所得が上がっているわけではないが、中規模会社が人材を確保するため、採用活動を強化している。今後の人材需要を見越しての先買いではあるが、今後、企業が攻めに出る際に必要となる有能な社員の確保を危惧する経営者も多く、採用を後押ししている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の求人依頼数は、前年比130%と堅調である。社員化を前提とした紹介予定派遣の依頼数も伸びている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・ここ2か月ほど、派遣登録の予約を入れたが、仕事が決まりキャンセルする人が増えている。以前は、あまりキャンセルは出なかったが、企業の採用も活発になっているようだ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、前年同月比で22.8%増と大幅に増加しており、有効求人倍率も前月より0.06ポイント改善した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・就職数も前月や昨年同月に比べて増えているが、特に有効求人倍率がかなり大きく伸びてきている。
		職業安定所（職業相談）	求人数の動き	・豪雨災害復旧工事の本格化やJR九州駅ビルの工事開始に伴い、建設業並びに建設業資材関係製造業が増加している。また宿泊業についても求人が伸びている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・社員採用が増えた影響で、求職者の数が減ってきている。ただし中高年やスキルの低い人材は採用には結びついていない状況である。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は前年や3か月前と比べて、大きな変化がない。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べの求人の取扱件数は、前年を上回っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告の動きは横ばいだった。猛暑の影響か、企業活動もやや停滞気味だったようだ。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・正社員求人が停滞している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・企業訪問や営業取材などで得た情報では、景気が「良くなっている」「良くなっていない」と感じている人が概ね半々である。プラスマイナスの面があり、相殺して「変わらない」というのが実感だ。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・全国的に好況と言われている自動車関連製造業だが、管内企業の増産の話はなく、海外生産へのシフトで厳しくなっている状況である。また、食品製造関係においては、円安による原材料の高騰により、価格転嫁を図る動きがあるが、消費の動きを勘案し十分に転嫁できていないところが多い。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人依頼数は横ばいである。派遣利用の話はあるが、実際の利用に至ることは少ない。マンションや戸建の設計会社からCAD利用の話があるが、急増していない。消費税増税前の駆け込み需要による案件はまだ不透明である。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数、人材派遣契約数が横ばいの状況である。前年同期比で減少してはいないが、増加もない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・現大学4年生を対象に調査した7月上旬までの内定者数は、前年度より増加しているが、月別の報告者数では顕著な伸びは認められない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・お盆休みの影響もあるが、例年以上に長期求人数が少ない。	

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---